



熊本県八代市・ 長崎県島原市と諫早市 を視察



昭和4年に設立され、約9ヘクタールの面積で、トマト・メロン・花苗・ベビーリーフを栽培しています。運営は営業所方式で、6戸の農家がそれぞれ温室(営業所)を受け持ち、実績に基づいて利益配分を受けるといふ経営手法をとっています。

農業委員会では、4月13日、15日の3日間、熊本県八代市、長崎県島原市・諫早市で先進地研修視察を行って参りました。

1日目は、「農事組合法人日進温室組合」を視察しました。当組合は、

会長の田辺正宣氏、妻の田辺美代子氏共に男女共同参画に意欲的に取り組んでおり、美代子氏は過去4回農林水産大臣賞を受賞しています。

また、翌日は島原市農業委員会と諫早湾干拓事業を視察しました。

今年の農作業標準労賃

作業名	使用機種	単位	備考
田一般		740	
畑		700	
果樹	剪定	1,140	1時間当たり
樹	一般	700	
菌茸		650	
その他(アスパラ、花き等)		650	// (室内作業)
耕田	ロータリーブラウ	6,610	10a当たり(条件により割増可)
起畑	(15cm耕)	7,350	(2度掛けは¥10,500)
碎土	ドライブハロー	6,610	// (条件により割増可)
	ディスクハロー		
代かき		8,080	// (条件により割増可、2回掛け)
田植え		8,080	// 植付けのみ
収	自脱型コンバイン	21,100	// 補助者付とする
	バインダー	10,080	// ヒモ含む
穫	ハーベスター	5,250	1時間当たり
	その他 トレンチャー	2,620	1時間当たり
賃	貸 料 バインダー	1,100	1条刈 1時間当たり
	乾燥・調整・包装	2,100	
	乾燥	1,200	水分20%を基準とする
	調整・包装	1,000	1俵60kg当たり

* 機械作業料金は税込み料金

* 参考：苗料金 芽出し：560円、緑化：635円、硬化：920円

島原市は、平成18年1月1日有明町と合併。平成15年3月現在の島原市の総人口は、三万九千六百五十一人で、

農業委員会は委員数・公選32人、選任7人で部会・専門委員会は設置していません。作付け作物は、大根・にんじん・白

菜・レタスが多く、年3作で水田の裏作として、白菜・レタス等を栽培しています。農業粗生産額151億5千万円で、野菜類

がんばってます!

— No.20 —

家族みんなで

楽しく経営を!!



吉越 洋治 さん
 ひろはる 関沢 (瑞穂)

高校卒業と同時に父の後を継いで、現在では一万四千羽と六千羽のひなを飼育しているそうです。一日の出荷数は、1箱10キロを70箱で、数にして約一万五千個程になるそう。ほとんど毎日仕事で、月1回休みが取れば良い方だということ。苦労している点は、この仕事をしてい

が多くを占めています。次に諫早湾干拓事業ですが、事業目的は、(1)防災機能の強化、高潮・洪水・常時排水等に対する背後低平地の防災機能を強化すること。(2)優良農地の造成、かんがい

用水が確保された大規模で平坦な生産性の高い優良農地を造成すること。平成16年11月現在の干拓地での営農意向調査結果では、約650ヘクタールの干拓農地の約4倍近い二千五百二十六ヘクタール

の営農希望が県内外からあったそうです。この視察を通じて学び感じたことを、今後の農業の発展に繋げて行けるよう農業委員会では取り組んでいきたいと思いま

の好きな所は、ひながすくすくと育ってくれるのを見れる所で、自分の子供たちのように感じるといふことです。また、家族でこの仕事ができる事も好きな所だそう。自分が出荷した卵をおいしいと言ってもらえるのがとても嬉しくて、やりがいになるといふことです。今の1番の楽しみは、子供達と遊ぶことだそう。これからの課題は、臭いなどの面で周囲の人に迷惑をかけるないように対策をして、しっかりとした経営をして行きたいということ。最後に、消費者の方に一言とお聞きしたら、「みなさん、1日1個卵を食べる下さい!!」という事でした。

あぜ道だより



農業委員 村上 信雄 (太田地区)

豪雪の爪あと

昭和二十年以来の豪雪もようやく消えようとしています。(四月二十五日) 当飯山市でも死者三名、負傷者多数、おまけに自衛隊の出勤と異例づくめの冬でした。

雪害が住宅・車庫・物置・農作業小屋・ビニールハウス・フェンス・塀・樹木・植木・ブドウ棚・アスパラの成育のおくれ、数え上げたたらきりがありま

雪どけによる道路の陥没・掘れ・排水路のつまり・U字溝のつぶれ・碎石の流出・畑の土の流出等の被害も深刻です。復旧工

事もこれからですが、市の予算が少ないとのこと、市道は協働のみちづくり事業から、農道・水路は中山間地直接支払いの金を使って、工事をやってほしいとのことですが、台風被害などには多額の国費を投入しているようですが、降雪被害には国費の投入が異状に少ないと感じているのは私だけでしょうか。南の秋津では農作業がすではじめ、北の岡山はまだ雪の中という異状な現象がおきています。

私の家でも本日(四月二十五日)ようやく前の畑の雪が消えました。さっそく柿の枝ひろいをして、軽トラ一台分になりました。

近年、農業人口の減少・高齢化・生産意欲の低下・安い外国産の輸入などで、十年前の40%も農業産出額が減少しているのを知ってびっくりしました。飯山市の基盤は農業と観光が主な産業ですので、豪雪に敗けずに知恵と努力と意欲と向上心でがんばりましょう。